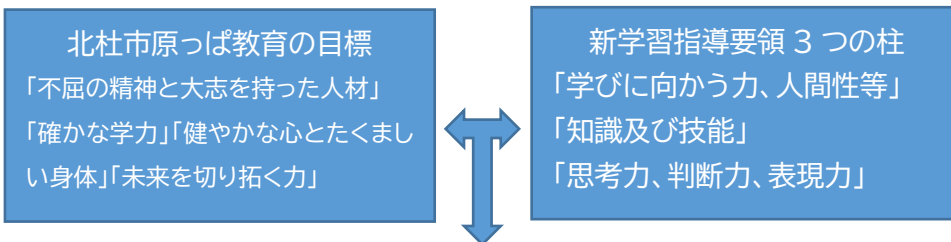


# 長坂中学校 校内研究モデル図



学校教育目標「自ら学び、心豊かでたくましく生きる生徒の育成」

研究主題「主体的に課題に向き合い、自ら考え、学ぶ生徒の育成  
～学習指導と評価の工夫を通して～」

生徒につけさせたい力・姿勢  
・状況に応じて課題を設定する力 ・理解度に応じて知識を習得する技能 ・自分の知識を活用しようとする力

**教職員の重点目標**  
○学習指導の充実のため！  
○教科、特別の教科道徳、特別活動、白藤タイム（総合的な学習の時間）を通じて！  
○自分なりの考えを持ち、お互いの知的好奇心が共鳴し合うような授業実践を目指し！

**学習活動に**  
○生徒が個に応じて、各教科の特質見方・考え方ができるように、  
「知識を相互に関連付けてより深く理解する」  
「情報を精査して考えを形成する」  
「問題を見いだして解決策を考える」  
「思いや考えをもとに創造する」  
などの場面を設定する。

授業のねらいの明確化  
授業における PDCA

**まず、やまなしスタンダードで**

- 1 授業の始めに児童生徒に授業のめあて(目標)を示している。
- 2 話し合い、討論、発表などの言語活動を効果的に取り入れている。
- 3 児童生徒は、他の人の話や発表に耳を傾けている。
- 4 児童生徒は、ノートをとっている。
- 5 活用・探究など、学んだことを別の場所で使うようにしている。
- 6 授業や単元の終わりに、児童生徒がめあて(目標)を達成しているかを評価している。
- 7 家庭学習(宿題や課題)と授業が、有機的に結びついている。

疑問・葛藤・発見などを大切に

**学習活動の見直しも併せて**

- 授業や家庭学習において、板書やノートのとり方、テストの見直し方、発言の何をどう聞きとるかなど、学習のあり方そのものを問い直す。問いを立てる力の育成。
- 教育課程全般において、横断的な学習や3年間を見通した単元構成とその達成状況の把握に努める。
- 単元ごとの評価  
試みとしての単元テスト、生徒自身と教職員による学習カルテの作成などにチャレンジ。

生徒とともにいう授業改善